

### 第3回 釧路川外減災対策協議会 議事要旨

日 時：平成29年6月28日（水）13:30~14:55

会 場：釧路地方合同庁舎 5階 共用会議室

#### 【議事】

- ・ 規約の改定及び釧路川外減災対策協議会の設置について
- ・ 国管理河川の減災に係る取組状況について
- ・ 北海道管理河川の減災に向けた今後の取組について

#### 【主な意見】

##### ○国管理河川の減災に係る取組状況について

###### （釧路市）

- ・ 今秋、新釧路川洪水ハザードマップの作成に伴い昭和地区の住民を対象とした洪水避難訓練を実施する予定。
- ・ 訓練を通じて洪水の発生が予想される場合の迅速な対応、関係機関との連携強化、地域住民の防災意識の向上に向けた取組を推進していきたい。

###### （釧路町）

- ・ 昨年12月、災害を想定した釧路町主催の研修会を実施した。住民や地元高校生らが中心となり、いつ起こるかわからない災害に向けてこのような準備は重要である。
- ・ 住民避難の周知方法については、防災無線の他、色々な方法を検討する必要がある。7月4日から気象庁から配信される危険度の色分け図などの新しいシステムを避難勧告等の判断に活用していきたい。

###### （標茶町）

- ・ 釧路川洪水浸水想定の見直しに伴い、ハザードマップの改定に着手し、住民の防災対策意識向上を図って参りたい。
- ・ 各種防災情報を盛り込んだ防災ハンドブックの作成や昨年の台風時に避難勧告の対象となった1,152世帯のアンケート調査を元に、避難勧告等の判断伝達マニュアル作成、避難所の充実、自主防災組織の拡大などに取り組んでいきたい。
- ・ 本町を会場として開催された釧路川総合水防演習・広域連携防災訓練では、消防団及び町職員、子どもを含む多くの町民が参加して実践的な訓練を行うことが出来た。このような貴重な体験とともに意識の向上も図られたところ。

(弟子屈町)

- ・住民への意識啓発として、町の広報誌に昨年から今年にかけて防災に係る記事を 6 回掲載した。特に避難準備情報が避難準備高齢者等避難開始に変わったことや、釧路川の洪水情報緊急速報メールの配信開始、気象庁ホームページの気象情報閲覧情報などを周知。
- ・町のグループホームでは洪水時の避難計画を策定したところ。今後、避難訓練も検討している。
- ・釧路川の洪水ハザードマップの改定作業を進めているところ。

(鶴居村)

- ・村内では国管理区間において住宅浸水の恐れは無い状況。ただ、釧路湿原に隣接していることもあり、農地や草地の水没は深刻。
- ・その中で防災対策としては、水害のみならず地震など含めた防災訓練を実施しているところ。現実的な課題としては釧路湿原に流入している河川の河床上昇が著しい状況にあることから、その対策等を含めた検討が必要であると考えます。

(釧路气象台)

- ・气象台で提供している各種情報については、避難勧告や指示等を行う際に解りやすい情報を提供するため、様々な情報提供の方法、見せ方の改善を行っている。
- ・そのうちのひとつとして、来月 4 日から気象庁ホームページでご覧いただけるのが洪水警報の改善情報であり、危険度分布情報と水位情報を組み合わせて利用することで、中小河川における避難判断にも有効になると考えている。
- ・その他、土砂災害、大雨浸水害についてもメッシュ情報等を提供しているので活用願いたい。

## ○北海道管理河川の減災に向けた今後の取組について

(釧路市)

- ・2 級河川の阿寒川を水位周知河川に指定頂きたい。
- ・昨年 8 月、阿寒川は、水位上昇に伴い、大楽毛地区の 3,342 世帯、6,240 名へ避難準備情報を出した。阿寒川は、水位周知河川に指定されておらず浸水予想区域が明確ではないこともあり、是非とも水位周知河川に指定をお願いしたい。

(釧路町)

- ・釧路川支川別保川の河川改修を一日も早く進めて頂き、地域住民に対して安心感を与え

て頂きたい。

- ・こうしたお互いの関係する市町村が集まって意見交換をする。また、国や道と情報交換を行う場合は、大変必要なことと感じている。

(浜中町)

- ・浜中町内には国や道が管理する河川は無いが、町で管理する小さな河川がある。茶内市街を流れるノコベリベツ川は、国営事業で明渠改修された後、沿川に住宅が建てられるようになった。近年の大雨では浸水被害が発生しているところ。
- ・町では、職員を対象にした土嚢づくりや設置訓練を毎年水防月間に実施するなどに取り組んでいるところ。また、河川敷に雨量計を備えた監視カメラの設置を予定している。
- ・各市町村の取組を当町の減災対策に参考したく、本協議会の取組に期待したい。

(標茶町)

- ・中小河川については、釧路川の水位上昇に伴う樋門閉鎖したときの内水氾濫に危惧しているところ。
- ・昨年8月の台風上陸時、町の管理河川オモチヤリ川では、開発建設部のポンプ車や当町の消防車の懸命な排水を行ったが床下浸水23戸の被害が発生した。
- ・樋門管理者との連携強化や資機材の確保等について、協議会の策定方針を参考に対策を講じて参りたい。

(弟子屈町)

- ・昨年8月の台風上陸時、釧路川上流と鑑別川の水位が上昇し、個別に避難準備情報を発令した。鑑別川については、水位計による水位上昇の状況と、現場の状況には乖離があると考えており、道と町のパトロールの調整や情報共有について強化が必要である。
- ・釧路川の避難勧告に着目したタイムラインは作成済みであり、引き続き鑑別川の作成に着手していきたい。鑑別川は水位周知河川に指定されていないが、川の防災情報等の公表値をもとに作成していきたいので協力をお願いしたい。
- ・昨年6月に釧路川の想定最大規模の浸水想定が国から公表されたところ。道管理河川についても同様の情報提供をお願いしたい。

(鶴居村)

- ・釧路湿原に流入している久著呂川、雪裡川、幌呂川の河道断面が確保されていない状況。近年、土砂堆積が著しく農地の被害が発生している。是非とも前向きな対応をお願いしたい。

(白糠町)

- ・本町には、和天別川、茶路川、庶路川と大きな 3 河川が流れている。低気圧等の豪雨があると流域沿いの小河川が氾濫するなど甚大な被害に繋がるような状況にある。昨年 8 月の台風通過時には、茶路川で氾濫危険水位を何度も超えた。
- ・河床に堆積している土砂の掘削や堤防の嵩上げ等により住民の不安が解消されると考えている。
- ・水位周知河川に指定されている茶路川の実況値と避難対象地域付近の実況値が乖離していると感じている。迅速かつ確実に災害時の応急対応を行うためにも、計測機器の増設等をお願いしたい。

(厚岸町)

- ・近年、本町で発生した水害としては、平成 25 年の大雨浸水害により町内各地に冠水が相次ぎ、床上・床下浸水、国道の冠水による通行止めが発生した。また、浄水場の冠水による断水が発生し、自衛隊による給水活動、釧路管内市町村による給水活動と飲料水の提供など多大な協力を頂いたところ。
- ・本協議会に参加し、地域の課題を抽出し水防対策を展開していきたい。
- ・また、河川管理者による尾幌川の河床掘削工事の再開、河岸整備等のハード対策のほか、避難勧告等の基準の明示化、自治会や自主防災組織、消防団と連携した水防避難訓練の実施等のソフト対策に取り組んでいきたい。

(釧路総合振興局)

- ・昨年 8 月の台風による大雨では、国が管理する河川だけではなく、道が管理する中小河川にも甚大な被害が発生した。今後、気象変動により気象現象の極端化の傾向が顕著になり、これまでのハード対策では防ぎきれない洪水発生が懸念される。
- ・人命を守るため、確実な避難をするために、洪水時の水位や浸水想定範囲といった水害リスク情報が重要である。
- ・管内の道管理河川 13 水系 64 河川のうち、水位周知河川に指定されているのが 5 河川。それとは別に水位観測所による情報を共有している河川が 8 河川。それ以外の地域では避難勧告の判断材料となる情報が提供出来ていないということが現状。
- ・水位観測所の整備や浸水想定区域図の作成は、財政的な制約もある中、すぐに必要な箇所すべてで実施出来ないというのが実情。背後地の状況や公共施設等の立地状況に応じて、優先順位を考慮して対応して参りたい。
- ・現状では、簡易なシミュレーションソフトを活用して氾濫範囲を示すなど、実施可能な水害リスク情報の提供、共有方法を検討していきたい。
- ・避難勧告に着目したタイムラインについて、作成する市町村に対し、過去の水位観測データの提供や技術的な助言を行うなど、協力していきたい。

(釧路開発建設部)

- ・ 昨年策定した釧路川の減災に係る取組方針について、引き続きフォローアップに努めていきたい。
- ・ 今回から、道管理河川または市町村管理河川においても情報共有を行うことで、結果として大変良い協議会になったのではないかと想っている。
- ・ 有事の際には、リエゾンやテックフォースなどを通じて、関係機関と連携を深め、いち早く命を守る、また、施設の被災を出来るだけ未然に防ぐ、また、被災が発生する場合は少しでも時間を稼ぐといった一つ一つの丁寧な対応が必要になってくる。
- ・ 本協議会を通じて、釧路管内の河川減災・防災力の向上に繋がっていくと確信している。

(事務局)

- ・ 次回の協議会は、平成 30 年 3 月頃開催する予定。その間、適宜、幹事会を開催し、取組を推進していく。

以上